**公益社団法人霧島青年会議所　第二回次年度理事会　議事録**

開 催 日：平成３０年１０月１２日（金）

開会時間：２０時２０分

閉会時間：時分

開催場所：ＪＣ会館

1. 開会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　木野田　幸平君
2. JCIクリード唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　盛田　啓仁　君
3. JCIMISSION及びJCI Vision唱和　　　　　　　　　鈴吉　美絵　君
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和　　　　　　　　　　　　重野　隆太　君
5. 霧島JC未来ビジョン唱和　　　　　　　　　　　　　　板元　幸仁　君
6. ２０１８年度スローガン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同上

７．２０１８年度理事長挨拶

理事長　前田　数馬　君

　公務のため遅れておりますので、後程行います。

1. ２０１９年度次年度理事長挨拶

次年度理事長　藏元　国明　君

こんばんは。１０月に入りまして本日の朝から急に冷え込んでおります。体調管理をしっかりしながら仕事そしてＪＣ活動をやっていってもらえましたらと思います。本日から副理事長の方針が上がって参ります。私も前回の正副会議以降、副理事長の皆様と色々と話をさせて頂きながら修正しております。自分の想いどこにあるのかと自問自答しながら今書いており少しずつまとまってきたのかなと思っております。委員長は

また今メモをとっている方も多いかと思いますが、議案の際は担当以外のところでもメモをとって伝えるなど、横の連携をしっかりととってもらえましたら思います。あとわからないことをわからないままにせず顧問・監事・直前理事長など経験のある方に質問しながらやってもらえましたらと思います。本日、開会が少し遅れましたが予定の２３：００に終われるようやっていきたいと思います。ご協力よろしくお願い致します。

９．２０１９年度次年度顧問挨拶

欠席のため、割愛。

１０． 議長選出

協議事項、報告事項：専務　　前田大悟

１１．議事録作成人並びに署名人の指名

議事録作成人：橋　正貴

　　　議事録署名人：木野田副理事長、板元委員長

１２．出席者及び定足数の確認

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 藏元国明 | 〇 | 鈴吉美絵 | ○ | 木野田幸平 | ○ | 田上俊介 | ○ | 重野隆太 | ○ |
| 板元幸仁 | 〇 | 盛田啓仁 | ○ | 前田大悟 | 〇 | 南郷英俊 | ○ | 橋正貴 | 〇 |

　　理事１０名中１０名出席により定足数を充たしていることを確認した。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 前田数馬 | △ | 竹下圭一郎 | △ | 井上正樹 | ○ | 常盤大和 | ○ |

　　役員４名中、現段階で２名出席により定足数を充たしていることを確認した。

１３．議題並びに資料の確認

協議事項６件　　連絡・報告事項４件　先ほど終了しております。

１４．議事録承認の件

鈴吉：確認させて頂きました。誤字、脱字の修正依頼、修正の確認を行いました。

重野：数カ所、修正依頼し変更確認しております。

１５．議題

協議事項１：２０１９年度　理事長所信（案）について

前田(大)：藏元国明君、よろしくお願い致します。

藏元 ： 前回から大きく変わっております。歴代の理事長・直前・顧問そして副理事長の皆様からお話を聞いて修正しております。意見対応はご覧ください。

【はじめに】

前田(大)：ありがとうございます。こちらは事前に配信しております。まず、「はじめに」の部分で、ご意見等ありましたら挙手にてお願い致します。

盛田：　外れたことを言うかもしれませんが、はじめにの「圧倒的危機感を持って真剣に向き合いＪＣ（青年会議所）だからこそできる運動を発信していくことが時代そして地域に必要とされる組織である。」とありますが発信することがと組織が繋がらないと思います。

藏元：　 青年会議所は意識変革団体と言われていましたが、これからは政策・立案・実行していくことが担いであると考え、ＰＤＣＡサイクルを使用した事業・運動を地域に発信していく組織という意味で書かせて頂いております。

盛田：　 ありがとうございます。

前田(大)：監事のお二方、副理事長さん方はありませんか？

田上：　 「我々が」ではじまり最後に組織であると繋ぎ方に表現のやり方があるのではと思います。

藏元：言葉を足すことも踏まえ検討したいと思います。ただ、我々という部分はＪＣとＪＡＹＣＥＥを含めているので、ＪＣだからこそできるに繫がり組織に結びつくと考えておりますので、そこはご理解頂きたいと思います。

前田（大）：　 他にないようでしたら次の「機動的な組織への進化」に進みたいと思います。

重野君なにかありますでしょうか？

重野：特にございません。

前田（大）：板元くんなにかなにでしょうか？

板元：一段落目の会員を繋ぐ円滑な連携体制のイメージを教えてください。

藏元：縦割りの組織ではなく横の繋がりの体制を構築することでもっと力強い運動・発信ができると思う。委員会の垣根を超えた運動・活動をしていかないと考えている。総務は総じて務めるという字のごとく、その様な部分も担って欲しい

板元：ありがとうございます。またわからないときは質問させてください。

前田（大）：他にないですか？

木野田：　今年度、内部的な部分が変わると思うのですが、組織として今までのやり方を大きく変えてやっていくなかで、見える化だけではなく横の繫がりを強くするイメージで記載頂けましたらと思います。

藏元：限定的にするのは？という意見もありオブラートに記載し、委員長会で手法を考えて欲しいと思いボカしたところであります。あまり詳細を記載しすぎると委員長が書きにくいかと思いますので、このようにしました。

木野田：理事長の想いがあるのであれば大丈夫です。

鈴吉：二段落目の総会の中身や法人格について記載があるのですが、総務でやっていくというより執行部とやっていくイメージでしょうか？

藏元：このメッセージは、委員会だけでなく会員に向けても記載している。ここに書いてあるから委員会の担いと思わなくても大丈夫です。

重野：一行目、霧島ＪＣは、まちの明るい豊かな未来に向けて活動する志を同じくするＪＡＹＣＥＥの部分は、繋ぎがおかしいかと思います。

藏元：句点の追加や文章を足したいと思います。

常盤：二段落目、そもそも「霧島ＪＣから重要です」の一文は不要かと思います。それは今年そこまで重要なのかと疑問に思います。

藏元：監事の言われた通りですが、あたり前と思っていることを会員がどれだけ理解しているのかという疑問もありますので、当たり前のことをしっかりやっていくイメージで記載させて頂きました。

前田（大）：他にないようでしたら次の「地域の発展に貢献できるひとづくり」に移らせて頂きます。委員長の方ご意見なかったでしょうか？

板元：最後の社会人基礎力の意味を教えてください。

藏元：経産省が掲げているが、考え抜く力・前に進む力・チーム力で働く力とありまして、そこから細分化され主体性や発信力・柔軟力・規律性など地域にとって経済人には行動力が必要とされる。

板元：リーダーとなるのは対内ではなく、対外に対するものでしょうか？

藏元：対内と考えておりますが、外にも発信する必要性があれば外部に向けてもいいと思う。例会にオブザーバーを呼んで～来年度の例会は公開例会という形でしても良いと思っているが、一番は対内です。

田上：二段落目の「学び得た知識～」は、どのように地域発展に繋がるかが弱いと思いますので地域社会との繋がりを記載ありますとわかりやすいかと思います。

藏元：言葉を書き足して繋げたいと思います。

前田（大）：それでは「共感の輪を広げる仲間づくり」に移ります。ここの部分は今回新たに追加されております。

藏元：基本、広報をイメージして書いております。なぜ広報をするのかとしたうえで、共感の輪を広げる仲間づくりとして対内・対外に向けております。中身に関しては、戦略をもって効果的な広報という部分が変わらない。背景があって何が必要だよねという部分から戦略をもって何をするという部分で言葉は変わっていますが気持ちは変わっていないのです。あとは顧問から指摘頂いた部分を変更しています。一段落目の「愛するまちを～」は文章の繋ぎがおかしいです。

鈴吉：一段落目中段、「しかし、事業計画を立てるうえで～優先順位が下がっている現状であります」の文章は各委員会向けなのか？質問です。

藏元：言葉も足りませんでしたが、霧島ＪＣがする事業計画という考えで記載しています。また、優先順位が下がっているという書き方がおかしいかもしれないが、背景目的、手法に終われて広報まで至っていない現状であると思う。人が集わないと意味のない事業が多い中で広報に関して期間があった方が良いと思い和らげて記載しております。事業計画書ではなく全体の事業の計画という意味です。

鈴吉：事業計画書という認識がありました。で、あれば各委員会がやっていくということでしょうか？

藏元：全委員会のイメージですが、担当委員会があるのでサポートして欲しいとは思います。

鈴吉：横の繫がりですね。ありがとうございます。

板元：文章を読んだときに広報をするのか、共感してくれる仲間集めなのか読み解けません。広報なのか、共感し共に発信してくれる人なのか拡大なのか、ご説明をお願いします。

藏元：広報は手法であるので拡大にも繋がると考えている。外向けのイメージで記載し、次に内向きに対しての拡大を記載しようと思ったのだが、ごちゃごちゃなりわかりにくくなっているのかとは思います。手法をメインで書きすぎる手法だけ並んでしまうので。

板元：広報が手法はわかるのですが、文章を読み解くなかで、なぜ広報をしなくてはいけないのかという部分が記載されているとわかりやすいかと思います。

藏元：確かにあった方がわかりやすいかと思います。我々の運動の発信であり共感の輪を広げるという意味でＪＣの存在意義であると思う。

井上：今の議論は広報することで仲間が増えるのか？ということだと思う。参加者を集める広報なのか？仲間を集めるとなると知らせるだけではないのかなと思います。知ってもらうことで仲間になることはないと思う。広報の成功と拡大はイコールではないと思う。あと、下から2行目の実行することで向上することでという部分は修正をお願いします。

藏元：仲間作りが拡大というイメージで記載していないつもりでおります。拡大に関してもまずは知ってもらううえで、広報が大事だと思う。会員拡大だけでなく共感や共に発信してくれる人々を指しておりますので幅を広く見てもらえましたらと思います。

田上：私の想う共感の輪というのは例えばフェイスブック等で「いいね」してくれる人も含めていると思う。それは広報を効果的にするだけでは繋がらないと思う。どちらを増やすのか明確でないのかと思うので間違って伝わるのではないかと思われる。

藏元：文章を整理します。

前田（大）：率先して行動するＪＡＹＣＥＥづくりに移ります。

板元：まさに拡大に関してだと思います。やらなくてはいけないことは記載されており、やることに共感もできるのですが、イメージを教えてください。

藏元：1番にトップの動きだと思います。熱意が伝わるか、伝わらないのかに影響すると思います。あとは、今まで危機感を仰ぐことをしてきたが中期の目標を掲げて年間何％拡大の必要があるのかを考えたうえで拡大を行っていくイメージです。日本本会にも色々なデータがありますので参考としております。

板元：はい。ありがとうございます。その他質問はありません。

重野：そこの明確な人数は記載できないのですか？

藏元：正副対応でも記載しておりますが、特に明記はしておりません。

前田（大）：その他、ご意見等なければ次の「誰もが夢を描けるまちづくり。」に移ります。補足を藏元くんお願いします。

藏元：田上副理事長とも話をさせて頂いたのですが、他団体と組み立てて実行までは難しいのかと思いますが、対象者を若い世代に絞りこの様な形にさせて頂きました。

前田（大）：ご意見ございましたらお願いします。

盛田：郷土を愛する心が暮らしやすい～の意味を教えてください。

藏元：自分がまちのことを好きだからどうにかしたいと思うものであり、まちづくりの源は郷土愛であると考え、この様な表現となりました。

盛田：もう一点、二段落目の若い世代のイメージを教えてください。

藏元：若年層とする中で２４歳ぐらいまで、大学生・中高校生をイメージしており学生がやりやすいと思っております。

板元：若い世代が対象者なのか？若い世代を運営に加えるのか？教えてください。

藏元：基本は政策を考えるのは我々、そして若い世代にやってもらうイメージ。

板元：もう一点、具体的に書かれたなと思うのですが、郷土の発展を目的とした立案とあるのですが、これでないといけないのでしょうか？

藏元：郷土の発展に繋がればいいと思っている。事業イメージはもっていますが、郷土に求められていることを模索して立案してほしい。

板元：そのイメージを少し教えてもらえますか？

藏元：３０周年事業を振り返ったときに提言しただけで実行していない。そこを思い出してもらえましたらと思います。またなぜ対象者が若いのかも考えて頂けましたら分かるかと思います。

井上：２点。心が暮らしやすい。のイメージと若い世代にターゲットを絞るということは郷土愛だと思うのですが、そこから夢を描ける郷土へと繋げるイメージを教えてください。

藏元：郷土を愛する心が暮らしやすいまちを作る原動力となるという意味合いで記載しております。あと誰もが夢を描けるまちについて若い世代だけでなくても自分たちがチャレンジできるまちを見せることが出来れば繋がると思い一事例作ることができればと思っている。

井上：結局、郷土を愛する心が育みやすいまちを作るのか？意味を教えてください。

藏元：暮らしやすいまちを作る原動力は郷土を愛する心、源になる、という意味合いです。

前田（大）：その他ありませんか？田上くん。

田上：夢を描けるまちと暮らしやすいは違うのかなと思う。人口流出は希望をもってと思いますので、暮らしやすいという部分は使い分けをしっかりとしてください。

藏元：はい。

常盤：郷土を愛する心が原動力であるということはわかったが、郷土の発展を目的とした～の前に「郷土愛を育み」を追加すると読み解きやすくなるかとおもいますので検討ください。もう一点、まちとまちづくりはどちらかに統一なりわかりやすく、書き方の検討をお願いします。

藏元：それがあってのという形となるのでアドバイスを参考にしたいと思います。上段2行目も再考致します。

前田（大）：では、「おわりに」の部分でご意見・ご指摘ございましたらお願いします。

田上：２０１９年度のスローガンは率先垂範ですので、意識も大事ですが強い言葉で良いかと思います。

藏元：そのように対応したく思います。

前田（大）：他になければ２０１９年度　理事長所信（案）を以上とさせて頂きます。

板元：休憩動議

セコンド　重野・田上

藏元：休憩動議を可とする理事の方

満場一致

藏元：２１：４０までの休憩を可とさせる理事の方は挙手をお願いします。

満場一致

藏元：それでは２１：４０まで休憩とさせて頂きます。

前田（大）：定刻となりましたので始めさせて頂きます。２０１９年度組織図（案）についてです。前回からの変更点としまして山元まどかさんを交代しております。出向役員として繁盛君を追加しております。委員会活動に関しましては、今年度の事業7を終えてからと考えております。

常盤：変わる予定があるので審議としていないのですか？

前田（大）：過去を見た時に２回で取っていなかったもので。

藏元：今年度、事業も終わっていないのでそこも踏まえてと思います。

前田（大）：他ロムを参考として会員に対して郵送する等を検討しております。

井上：誤字指摘です。安滿君の「ま」は、人。山﨑くんの「さき」は立つ方でお願いします。

前田（大）：修正します。他になければ以上とさせて頂きます。

２０１９年度副理事長方針　鈴吉美絵くんについて

鈴吉：１回目ですので読ませて頂きます。

　　　朗読

　　　正副意見は読んで頂けましたらと思います。修正青字にて対応しております。

前田（大）：それでは背景のところからご意見・ご質問ありましたらお願い致します。鈴吉副理事長は着座でお願いします。

今、前田理事長が公務から戻られましたので(21:50)出席確認をさせて頂きます。理事長挨拶は現在の協議が終わり次第でお願いいたいと思います。

前田：はい。遅参して申し訳ございません。

前田（大）：定数確認。理事10名中10名、役員4名中3名

重野：背景の最後の文ですが、なぜ必要かという部分がどこに記載されているのでしょうか？

鈴吉：問題点だけ記載されていてなぜ必要かが記載していなかったので追加したいと思います。

重野：ありがとうございます。

前田（大）：他に意見ありませんでしょうか？

板元：背景の冒頭部分に組織の取り組みが記載されているが社会経済状況が関係しているのか教えてください。

鈴吉：会員というよりは、一個人として書いていたので削除若しくは文章の再考をいたします。

板元：ありがとうございます。

井上：今ご意見もありましたので、背景も変わると思いますので大丈夫です。

前田（大）：2段目でご意見ありましたらお願いします。

常盤：2段落目、最初の一行目で組織運営についてありますが、組織運営は執行部の役割かと思いますのですみ分けを考えてください。また、次の文での組織運営と理事長の想いの部分は繋がらないので整理をお願いします。

鈴吉：自分でも読んでいておかしいと思いましたので修正させて頂きます。

田上：書き方の問題ですが、2行目最後の部分「柔軟な対応を心がける」とありますが言いきる形が良いかと思います。

鈴吉：そのような形で修正させて頂きます。

田上：拡大のところで「地域の方々と繋がりをもって～」と記載がありますが、イメージを教えてください。

鈴吉：共感の輪を広げることをイメージし、様々なところに広報を行い、他団体とつながりをもってＪＣへの入会を期待して記載しました。

常盤：4行目。「委員会活動や～サポートし」とありますが、どの様にサポートするのか個性を出して具体的に記載してください。

鈴吉：具合的に記載し、どの様にサポートするかを追加して参ります。

重野：2段落目「～するために」がないので理由が見えません。

鈴吉：先ほどもご意見頂いている部分ですので書き方も含め修正させてください。

前田（大）：それでは3段落目でご意見ご指摘お願い致します。

　　　　　私から一点、先ほどもご意見ありました意識のところは修正お願いします。

鈴吉：削除して修正致します。

板元：率先垂範に関して「」は不要ですか？あと、最後の文がよくわからないかと思いますので再考して欲しいです。

前田（大）：まず、スローガンについて藏元くん。

藏元：自分は強調の意味で「」とします。

前田（大）：文字制限がありますので「」なしで統一お願いします。

鈴吉：自分でも読みにくかったため、最後の文は修正致します。

井上：背景も変更となるので、変わってくるかと思いますが、問題定義をしっかりし、手法になんのためにやるのかが記載できると考えます。今やることだけになっているので。また背景が変わって全体的に大きく変わるかと思いますが。

鈴吉：ご意見ありがとうございます。

藏元：鈴吉副理事長お疲れ様です。所信が遅い分ご迷惑をかけているところでありますが、私が気になる部分は、横の繋がりの部分も記載頂いているのですが、担当委員会に限らずなどの単語がはいってくるのが、その様な意識があるのかと疑問に思いました。

鈴吉：修正します。

前田：色々とご意見出たので次回正副を楽しみにしておきます。

前田（大）：以上とさせて頂きます。ここで2018年度理事長より挨拶をお願い致します。

前田：理事長所信に私は間に合わなかったのですが、色々と意見も出たかと思います。また次回正副を楽しみにしたいと思います。今後も青少年事業・ハロウィンとあるJCライフの忙しい中で大変かと思いますが、次回は委員長方針も出て参ります。ここが踏ん張りどころかなと思いますので頑張って頂きたいなと思っているところでございます。また先日の全国大会におかれましては多くの方々の参加ありがとうございました、その中で台風の影響で会場の変更などご迷惑をおかけし深く反省するところでありましたが、宮崎JCさんも寝ずに天候対策、対応で大変だったと思います。その中で九州地区鹿児島ブロックとして重野委員長をはじめバックサポートに尽力頂き霧島JCとしましても協力できたのではないかとうれしいところでございました。色々とクレームもありましたが、会場変更等で15,000人を動かすのはJCでないとできない、JCの繋がりでなければ乗り越えられないと改めて思ったしだいでございました。本日も良い理事会となりますことを祈願しまして理事長の挨拶と代えさせて頂きます。

前田（大）：只今、次年度顧問もお見えですので、次年度顧問　竹下くんより挨拶をお願いします。

竹下：理事長所信2回目協議が終わったところかと思うのですが、皆さんがこの理事長所信にしっかりと向き合い副理事長の皆様は基本方針を作り上げて頂きたいと思います。私から言えるのはこの10月という時期をどの様に過ごすのかが来年の方向性に関わってくるかと思います。先日も次年度理事長と遅くまで話をさせて頂きました。それがトップの姿だと思います。自分の寝る間を惜しんで人に頭を下げて学ぶ姿勢は、是非リーダーとなる皆さんには見習って頂きたいと思います。与えられた責任を全うするために向上心をもって率先垂範のもと人の見本となるように頑張って頂けましたらと思います。今からの副理事長は頑張りましょう！以上です。

前田（大）：定足数の確認。役員4名中4名となっております。

それでは2019年度副理事長　基本方針　木野田幸平くん

木野田：1回目ですので読ませて頂きます。

　　　朗読

　　　正副の意見と対応はお見通しください。コミュニケートの意味は、考えたりや伝えるという意味になっております。

前田（大）：背景の部分よりご意見・ご指摘ありましたらお願い致します。

重野：背景3段落目と最後の文で「必要です」が2回出てくるのが不自然かなと思います。

木野田：広報と拡大の二つを担う中で、広報して拡大ではなくそれぞれの背景とした時にそれぞれの必要性を書かせて頂きました。

重野：ありがとうございます。

鈴吉：重野委員長の意見に類似しますが、総務委員会も２つの担いがあるなかで、「現状のあとに効果的な広報を行い、また熱意をもって～」と続けて順番を変更して記載する方が望ましいかと思います。

木野田：私も当初その様にと考えていたのですが、100文字ずつに分けてという正副の意見があったのですが、この部分はどの様にしたらいいでしょうか？

鈴吉：現状と問題定義に関して100文字ずつに分けるという意見であったと思います。

木野田：わたしの認識不足でした。修正致します。

藏元：補足ですが、正副時に現状が4行あったので現状と問題定義に分けた方がという意見でした。

井上：背景も変更になるかと思いますが、最小限で描いたため現状どのようであり何をしないといけないのかが分かりにくいので整理してください。

木野田：踏まえて再考させて頂きます。

前田（大）：顧問は総括という形でお願いしたく思います。他にご意見ありませんでしょうか？なければ続きまして目的の部分でご意見・ご指摘ありましたらお願いします。

田上：6行目からの「各委員会～環境を整えて」の部分はどの様に環境を整えるのか教えてください。

木野田：現状報告と協力体制を副理事長間でやっていきたい。環境にかんしては他委員会の事業にもしっかりと参画環境を作りたいと考えております。

重野：副理事長の色がないかと思います。

木野田：個性に関しまして、前回委員長よりの文章になってしまったので副理事長の視点や職域を意識して作成しました。

重野：副理事長の役職に対する認識不足でした。

鈴吉：再考お願いします。

木野田：もう少し砕いてわかりやすい様にしたいと思います。

常盤：例えば3行目。「～ために～し」の手法的な部分がずれていると思いますのでもう少し全体的に整理してください。

木野田：「心引き締まる」の前をもう一度よろしいですか？

常盤：他人を変えるイメージなのか？そのあたりを修正してください。

木野田：最後の文については、正副見解も含め意気込みを記載しました。また正副の方でも話したいと思います。

前田（大）：他になければ3段落目に移ります。ご意見ご質問等ありましたらお願いします。

常盤：結果については、背景の何が問題点であるか絞りきれてないので、意見がでにくいかと思います。しいて言えば霧島と記載があるので広い範囲で記載もらえましたらと思います。

木野田：背景の修正に伴い修正してきます。

前田：手法に関して、本当に副理事長がしないといけないことを考えて。初めての副理事長なので、なかなかイメージもわかないと思いますが他の副理事長にも意見を聞きながら記載してもらえましたらと思います。

木野田：ありがとうございます。手法の部分も模索して修正したいと思います。

竹下：執行部に質問です。次年度の副理事長の役割を教えてください。

前田（大）：組織として動いていく中において、会員と組織として動いていく担いでございます。

竹下：担当委員会はあるの？

前田（大）：あります。

竹下：副理事長はまだ頑張れますか？基本方針と事業計画は違う。基本方針は大枠を決める方針なので意気込みや補佐する等は不要。担当があるのであれば副理事長は委員長以上に担いに対する方針を作らないといけない。2段落目に関しては一新した方が良い。所信の一番下に基本方針が6項目あるが、それぞれに担当の担いがある。例えば地域の発展に貢献～のところを細分化して副理事長が記載するようにしないといけない。レベルをあげるのであれば変えた方が良い。これは、意見です。あと質問です。現状に関して何を根拠に記載しているのか教えてください。

木野田：自分がJC活動してきた経験の中での感じた部分です。JCの認知度など自分の感じた部分を記載しております。

竹下：根拠がないです。発信力が強くないといけない理由を教えてください。

木野田：存在意義の発信をしないと地域に浸透しない。

竹下：ＪＣの存在意義は？

木野田：自分たちの目的達成と認識しています。

竹下：自分たちの目的ってなにですか？

木野田：明るい豊かな社会の実現です。

竹下：明るい豊かな社会の実現は具体的に何をすれば達成できますか？

木野田：地域が活性化し、みんなが和を持って暮らせるようになればと思います。

竹下：それはＪＣしかしてないことか教えてください。

木野田：他団体もしていると思います。

竹下：存在意義とするのであれば、何が唯一無二の存在ですか？

木野田：若き青年団体として限られた期間の中で活動していくという部分です。

竹下：ＪＣの存在意義に対して一言で言えないといけない。もっと考えないといけない。自分たちが認知度を高めるためにＪＣやっているの？

木野田：それだけではない。

竹下：だと思います。拡大と広報の担いの委員会なので理事長がなぜ、この委員会が必要なのかを考えた方が良い。次年度が伝えたいのは率先したＪＣと共感の輪を広げる仲間づくりだと思うので木野田副理事長はしっかりとした答えを見つけてください。ちなみに次年度が書いているのは共感してもらいたいと力のある組織を継続していきたいという想いですので背景にしっかりと落とし込んでください。

藏元：今までの霧島JCの副理事長の書き方とこれまでの書き方は違うので今後検討するとしても背景同じなので修正お願いします。あとは、率先垂範の内容を書いてください。

前田（大）：他になければ閉じさせて頂きます。

板元：延長同義

セコンド　重野・田上

藏元：２３：３０まで延長させて頂きます。

前田（大）：2019年度副理事長方針（田上くん）

田上：1回目ですので読ませて頂きます。

　　　朗読

　　　修正を間違いまして赤字対応しております。よろしくお願い致します。

前田（大）：それでは背景部分よりお願い致します。

板元：市民参画型の事業をすることで、若い人たちの流出を食い止められるのでしょうか？

田上：都市部への流出する人たちの理由として待遇が良いことや希望を求めてであります。県外に就職する人に対して、この地域にも魅力や希望がもてればよいと考え夢を描けるまちという風に記載しました。

板元：霧島市が夢を描けていないのか疑問に思います。

田上：減りにくいとなっているが昨年も減っている。霧島市の中でも国分・隼人以外は減っている。20年30年先を考えた時に都市部に行かないと生き残っていけないと考える人は多い。これは鹿児島市も同じであると思う。

井上：個人的に素晴らしい背景だと思うのですが、理事長所信と見比べた時に若年性に視点を当てた部分が出てきてもよいのかと思う。そうすることで手法の部分と背景が繋がると思います。

田上：所信にありますので追加したいと思います。

常盤：最初の一行目の資本主義社会とありますが資本主義社会は、かなり昔の話かと思う。それからずっと薄れ続けているわけではないので、理由を教えてください。

田上：問題定義のところは自分たちだけではなく、優先してきたものが利益に繋がるもの、無駄をしないという風潮を進めてきた結果、お金にならないコミュニケーションは不要となっている世の中であるのではないかという考え方を記載したのですが、書き方が適切ではなかったかもしれません。

常盤：資本主義ではわかりにくいので端的に利益優先主義というような記載をした方が良いかと思います。

前田（大）：それでは2段落目に入ります。ご意見ご指摘ありましたらお願いします。

常盤：ここについては、先ほどの意見で変わるかもですが、２点ほど。3行目の他の理事長と横の繋がりについて横はいらないかと思います。2点目は、７行目の他団体と進めるにあたりについては、何の進め方なのか、どの様な進め方なのか記載した方がわかりやすいかと思います。

田上：考えさせて頂きます。

前田（大）：前田理事長、全体的にありましたらお願いします。

前田：費用対効果とありますが、それだけが原因なのか？今ひとつピンとこないというか私はわかりにくいと感じました。地域愛が薄れたからに原因があるのか？景気が悪いから費用対効果を求めるのか？現状は、そこなのか疑問です。担当副理事長としての担当委員会に関する担い部分が少ないのかなと思いますので、担当委員会の方向性を導き出せるような内容を検討頂けましたらと思います。

田上：ありがとうございます。

竹下：盛田委員長へ質問です。まちづくりを考えるうえで必要なことは経済の事ともう一つはなにですか？

盛田：わかりません、教えてください。

田上：人口。

竹下：まちづくりを考えるうえで必要なことは、経済と政治です。経済の部分で背景を記載しているのであながち間違っていない。ただこれだけではない、どの様な政策があっての現状なのか。地方分権について勉強してほしい。先ほど、委員長より参画型に変われば夢が見られるのか？とありましたが都市部流出を抑制するには、もっと簡単なことがあります。参画と参加の違いはなにですか？

田上：参画は作るとこから始まるので郷土愛が芽生える。

竹下：参画は考えて導き出す。郷土愛は参加では育めない。では、夢や希望をもつ必要はないです。そこはその先だと思います。一緒に霧島の事を考えて企画から参画することで。JCとして何をするかといえば、若者に対して価値観の植え付け。この地域に残りたいと思う仕組みをどの様に変化させていくかを考えるなかで参画型で、この郷土を考える事業だと思うので、背景をもう一度政治を踏まえ検討してください。

田上：ありがとうございます。

藏元：理事長、顧問からあったように使っている言葉の意味をしっかりと調べて自分の中に落とし込んでください。

板元：再度延長同義

セコンド　鈴吉　橋

藏元：２３：４５まで延長させて頂きます。

前田（大）：２０１９年度　予算（案）について

　　　　　舞鶴鍋は本会計を外して互助会対応。次年度理事研修も計画から外しております。あとは今年度繰越が未定となっておりますのでこの様に振り分けしております。

鈴吉：まち・青少年は分けておりますがよろしいですか？

前田（大）：現状、例年通りの形で出させて頂いております。

板元：これは事業費だけですか？基本資料はどうなりますか？

前田（大）：資料製本費に入っております。

常盤：今後、変わると思いますが内訳の数式が消えているところがあるので注意してください。あと、登記委託費を確認のうえ計上してください。

前田（大）：これから事業規模により変わってくるかと思いますので都度修正させてください。以上とさせて頂きます。皆様服装姿勢を正してください。それでは監事講評

次年度監事　常盤大和君

常盤：皆様お疲れ様です。最終的に全員での参加ということで大変うれしく思っております。理事長所信は固まってきたなかで副理事長と話をしながら進めて頂けましたらと思います。その中で、副理事長はここからが大変かと思いますが次年度の方向性を決める大切な時期ですので乗り越えて頂けましたらと思います。委員長につきましては次回が一回目、横の繋がりで他の委員長と話をしながらで書いてもらえましたらと思います。私の意見としては、財政局長、事務局長は正副も出ておりますのでしっかりと意見を出してください。忙しいと思いますが本年度あっての次年度ですので、当日いけないのであれば、事前準備を手伝うなど出来るかことをしてほしいと思います。また体調に気を付けて活動して頂けましたらと思います。本日はお疲れ様でした。

次年度監事　井上正樹君

井上：次年度理事会自体も練習だと思いますが、開会の遅れや延長も２回ありましたので次回以降に期待して皆で取り組んで頂けましたらと思います。所信・方針については時代背景で９割決まると思います。何が問題で何が必要をしっかりと理解したうえで、何をする、そしてどの様なゴールをイメージするかという中で、時代背景がどこまで見えているかということの重要さがわかったかと思います。副理事長方針に意見もありましたが個人的には、修正する形に挑戦してもらいたく思います。修練とかではなく、副理事長が方針を作るにあたりイメージできていることで、しっかりと道を示すことででき委員会もピシャーといくと思いますので頑張って欲しいと思います。みんなで来年を盛り上げていきましょう。以上です。

次回開催

10月18日　20：00～　第3回正副理事長会議

10月24日　20：00～　第3回次年度理事会

１７．閉会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　田上　俊介　君

議長・理事長（代表理事）　　　　藏元　国明　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　木野田　幸平　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　板元　幸仁　　　　　　　　　㊞

監　　　　　　　　　事　　　　　井上　正樹　　　　　　　　　㊞